

2023年1月19日

各 位

会社名 株式会社ユーグレナ
代表者名 代表取締役社長 出雲 充
(コード番号:2931)
問合せ先 執行役員 CFiO 若原 智広
(TEL.03-3454-4907)

2022年12月期決算の見通しについて

当社の2022年12月期の連結業績に関しては現在決算集計作業中であり未確定ですが、当社が2022年8月10日に公表した当社の2022年12月期の連結業績予想（連結売上高44,000百万円、連結調整後EBITDA2,100百万円）に関しては、連結売上高は概ね業績予想値前後の水準で着地する一方、連結調整後EBITDAは業績予想値を25%以上上回る水準で着地することを見込んでおります。また、連結営業損益、連結経常損益及び連結当期純損益に関しては通期業績予想を開示しておりませんが、2021年6月30日をみなし取得日として連結子会社化した株式会社Q-Partners、キューサイ株式会社及びその子会社3社（以下「キューサイ・グループ」といいます。）が連結業績に寄与した期間が6か月間（2021年12月期）から12か月間（2022年12月期）に拡大したこと、並びにキューサイ・グループの連結時における棚卸資産のステップアップ（注1）に伴い棚卸資産に計上した含み益の費用化処理の影響額が大幅に減少したこと（総額6,707百万円のうち、2021年12月期中に4,842百万円の費用化処理が完了し、残額1,865百万円が2022年12月期中における費用化処理の最大額）等を主要因として、当社の2022年12月期の連結営業損益、連結経常損益及び連結当期純損益は、2021年12月期の各指標の実績値に15分の12（注2）を乗じた金額と比べて、30%以上損失額が縮小し、当該損失額の減少幅は2021年12月期の連結純資産を5%以上上回る見込みです。

個別業績に関しても通期業績予想を開示しておりませんが、当社の2022年12月期の単体売上高は、直販及びOEMチャンネルの売上高が前年同期に対して減少基調で推移していること等を主要因として、2021年12月期の単体売上高の実績値に15分の12を乗じた金額（注2）と比べて、10%以上減少する見込みです。

（注1）棚卸資産のステップアップは、連結時点の棚卸資産を、正味売却価額（売価から見積追加製造原価と見積販売直接経費を控除した金額）に評価替する会計処理となります。2021年6月30日をみなし取得日として連結子会社化したキューサイにおいて、連結子会社化時における棚卸資産のステップアップにより6,707百万円の含み益を棚卸資産に計上しており、商品販売による棚卸資産の払出しに伴って当該含み益が売上原価として費用化されます。

(注2) 当社の2021年12月期は、決算期変更により2020年10月1日から2021年12月31日までの15か月間となっているため、15分の12を乗じて12か月に換算した金額と比較しております。

以 上